

はじめに

1976年に地域経済研究会が発足してから早や6か年が経過した。『地域経済』第1集の発刊は研究会発足の翌77年であったが、その後、80年に第2集を刊行している。

その間、研究会は78年に恒久機関となり、また81年4月には研究所に改称して、組織はいっそう充実し、将来に大きな期待がかけられている。

ところで、前号では、輪中地域をとりあげて研究し、これをまとめたが、内容的にやや一貫性を欠いた。この第3集は、同じく輪中特集号であるが、研究所の初仕事として十六輪中の総合研究を企図し、その成果をまとめたものである。

輪中は、耕地や集落が堤防によって囲まれた特異な生活共同体であるが、その学問的究明は数少なく、とくに、特定輪中の組織的・総合的研究は皆無といってもよい。われわれのこの研究は小さいものではあるが、おそらく、その先鞭をつけたものではなからうか。

十六輪中は、輪中の形成（輪中堤の完成）が1869（明治2）年で比較的新しく、またそれが現存しており、規模も小さくまとまっていることから、よく学会の見学などの対象に選ばれている地域であるが、そのことは、輪中の形成過程やその構造などを知るうえで恰好の場所と考えられる。われわれが、総合研究の対象に選んだ所以でもある。

おくれたが、研究の進展にあたって、十六町住民の方々の全面的な御協力をえたことに深甚の感謝を申し上げたい。この研究は、一に十六町民の御厚意によって成ったものである。また、自治会長和田実氏には、当初から種々御便宜や御指導をいただいた。厚く御礼申し上げます。さらに大垣市役所、とくに企画広報課、ならびに荒崎支所には、繁忙をいとわず、資料の呈示その他多大の御協力をいただいたことを記して、感謝の言葉に代える次第である。

岐阜経済大学地域経済研究所

所長 大迫輝通